

## 7. 付着繊維状物質調査

財団法人 元興寺文化財研究所 井上 美知子・山田 卓司

### 1. 分析目的

木村定三コレクションM1027に付着する繊維状物質をマイクロ스코プ（キーエンス製VH-7000S）により拡大観察して、その形態調査を行った。観察箇所は図1を参照のこと。

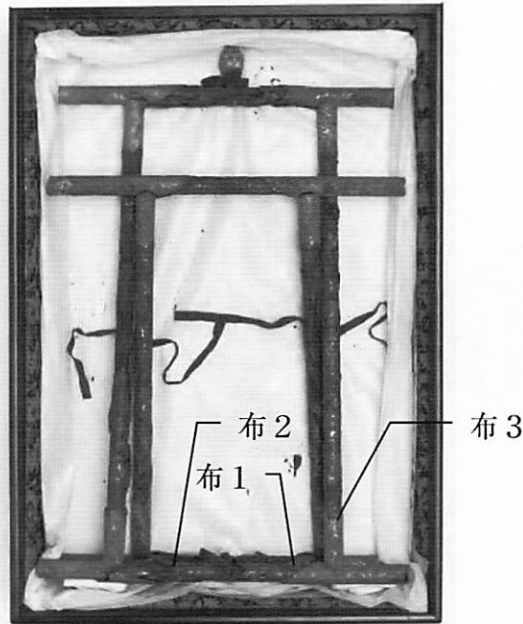


図1. 木村定三コレクションM1027

### 2. 結果と考察

木村定三コレクションM1027に付着する繊維状物質は、マイクロ스코プの拡大観察により平織の布であった（図2、3、4）。観察された布は以下のような特徴を示した。

- ・緻密な布は複数枚重なっており、重ねて巻かれていたものと考えられた。
- ・布の質感に乱れがなく繊維種は絹の可能性が高い。
- ・糸の撚りはほとんど確認されなかった。
- ・布1、2の織り密度はどちらも $1\text{ cm}^2$ 当たり経糸42本、緯糸42本であった。
- ・布3の織り密度は $1\text{ cm}^2$ 当たり経糸28本、緯糸18本であった。

（なお、布に耳は確認されず経緯糸の区別ができなかったため、便宜的に糸の本数の多い太い糸を経糸とした。）



図2. 観察箇所 布1の拡大画像



図3. 観察箇所 布2の拡大画像

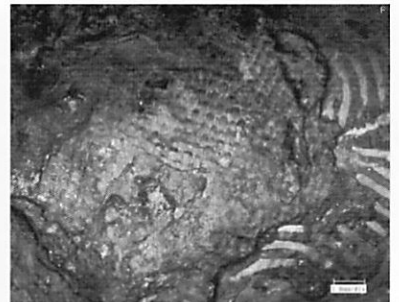


図4. 観察箇所 布3の拡大画像  
【カラーP5参照】

## 2. 付着繊維痕

